

右側のアーバー
が自立つ414
ールセンター
れ、メカニカル
ップを稼げるよ
なった。サーボ
りつけは日本では
ス止めが一般的
で、ステーを使
固定するように
されている



剛性重視だったアルミ製アップライトとCハブ。MCナイロン削り出しのサスアームは剛性もさることながら、柔軟性も持ち合わせておりクラッシュにも強い。グリップさえ安定していればこちらのパーツでも十分なことは、各レースで実証済みだった。剛性重視の作り込みがされていた

アルミ並の剛性と、それ以上の軽さを手に入れるため作られた樹脂成型部品。サスアームに関しては材質の違う2種類をキットに収め、セッティングの幅を広げる。細かいところではフロントナックルのヘアリングサイズを見直し、前後同じヘアリング&ユニバーサルが使用可能となる

という実践の中で常に進化していくシャシーなのである。次のページからは414X以前の404X、そして国内のビッグイベントに参加してきた414Xが、414へと進化するためどう変化してきたのか、これまでの過程を見てもらうことにしよう。

